

# 入学者選抜試験問題

## 国語

実施 令和七年 二月 十日（月） （第一回）

### 注意事項

- 一 監督者の合図があるまで問題冊子を開かないでください。
- 二 解答用紙は問題冊子の間にはさんであります。
- 三 試験時間は五十分です。
- 四 解答は、全て解答用紙にHBまたはBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使ってマークしてください。解答用紙の「マーク例」「注意事項」を確認すること。正しくマークされていない場合は採点できません。また、答えを直すときにはきれいに消してからマークし直してください。
- 五 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- 六 問題冊子も回収しますので、受験番号・氏名を記入してください。
- 七 問題は 一 から 四 までで、一ページから八ページに印刷してあります。

受験番号（ ） 氏名（ ）



一 次の間にそれぞれ答えなさい。

問一 次の①～⑤の―線部の漢字の読み方として最も適切なものを、後の1～4の中から一つずつ選び、番号を答えなさい。

解答番号は①～⑤。

① 緊迫感のある現場。 ①

- 1 きんきゅう 2 けいかい  
3 あっぱく 4 きんぱく

② 夢と現実が交錯する。 ②

- 1 こうさく 2 れんさ  
3 こうりゅう 4 こうさ

③ 飾りを施す。 ③

- 1 うなが 2 しる  
3 ほどこ 4 もよお

④ 技術の粋を極める。 ④

- 1 すい 2 わく  
3 いき 4 ずい

⑤ 激励の言葉を贈る。 ⑤

- 1 かんれい 2 げきしょう  
3 げつこう 4 げきれい

問二 次の①～⑤の―線部のカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、後の1～4の中から一つずつ選び、番号を答えなさい。解答番号は⑥～⑩。

① セイキウ書を出す。 ⑥

- 1 許しをこう。 2 マコトに申し訳ない。  
3 シズかな朝だ。 4 礼儀タダしい人。

② 冷静チンチャクな対処。 ⑦

- 1 チンコン歌が流れる。 2 チンツウな面持ち。  
3 チンタイ物件を探す。 4 チンキな出来事。

③ アキナいを家業とする。 ⑧

- 1 シヤメンを転がる。 2 アくなき探究心。  
3 シュウジツ休みだ。 4 ショウセンが港に入る。

④ グチヨクに取り組む。 ⑨

- 1 チクサンに力を入れる。 2 スナオな性格。  
3 チョスイ池を眺める。 4 キナガに待つ。

⑤ ボウキョウの念に駆られる。 ⑩

- 1 ボウオン設備を整える。 2 安眠をボウガイする。  
3 キボウを持ち続ける。 4 ホウボウに散らばる。

二 次の問にそれぞれ答えなさい。

問一 品詞の種類が異なるものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は11。

- 1 そして      2 その      3 しかし      4 とはいえ

問二 「起きる」の活用の種類を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は12。

- 1 カ行上一段活用      2 カ行下一段活用  
3 ラ行変格活用      4 ラ行五段活用

問三 「口を隠して笑った」の「隠し」の活用形を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は13。

- 1 未然形      2 仮定形      3 終止形      4 連用形

問四 「抜け目なく油断ならないさま」という意味のことわざを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は14。

- 1 生馬の目を抜く      2 狐につままれる  
3 魚心あれば水心      4 蛇の道は蛇

問五 「収入」の対義語と同じ漢字を含む熟語の組み合わせとして正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は15。

- 1 余裕・放任      2 返却・自動  
3 導入・離散      4 支援・突出

問六 「不安」のように、前の漢字が後の漢字を打ち消している熟語を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は16。

- 1 禁止      2 未開      3 永久      4 因果

問七 謙譲語を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は17。

- 1 いらっしゃる      2 下さる  
3 召し上がる      4 申し上げる

問八 平安時代前期に成立し、「いまはむかし」から始まる日本最古の作り物語として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は18。

- 1 『源氏物語』      2 『平家物語』  
3 『竹取物語』      4 『落窪物語』

問九 太宰治の作品の冒頭として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は19。

- 1 メロスは激怒した。  
2 ある牛飼いがものがたる。  
3 吾輩は猫である。  
4 高瀬舟は、京都の高瀬川を上下する小舟である。

③ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

《あらすじ》

「私」は十四歳のとき、祖母に本を探して欲しいと頼まれた。祖母が亡くなった後、大学三年生になった「私」は復刊されたその本を見つけるのだった。

大学を卒業後、私は都内のちいさな本屋に就職した。世のなかはまだ景気のよさが名残<sup>注1</sup>のように漂<sup>なごり</sup>っていて、就職は売り手市場だった。クラスメイトの多くは、大手の広告代理店や出版社に入社した。初任給がアルバイトとほとんど変わらない、名もない本屋に就職したのは私くらいだった。それでも私は決めていたのだ。本屋で働こうと。それも、さほど大きくない、お客さんの声が店員に届くような本屋で。

もうすぐ私は三十歳になる。私の勤める本屋は、幾度かの経営不振を乗り切りつつも、なんとか経営を続けている。給料はあいかわらずアルバイトにAの生えた程度だが、私は顧客サービス係の主任になった(名札には、ブック・コンシェルジュと店長が苦心の末考え出したとんでもないC書きがついている)。本をさがして来店するお客さんに、目的の本をさがしたり、取り寄せたり、調べたり、関連本を見つけたりするのが、私の主な仕事である。

書名と著者名、出版社をはっきり覚えて本屋にくる人は案外少ない。「結婚式のスピーチができるだけたくさんのついている挨拶集がほしい」なんてのはまだいいほうで、「犬が出てくる話で、最後はみんな抱き合って泣くような小説なんだけど」とか、「昔読んだんだけど、雨や雪をワンピースに縫いこむ絵本をさがしている」とか、ときどきは、「十二歳のとき離れてしまった、現在二十歳の娘に本を贈りたいので何か選んでほしい」なんて要望もある。その都

度、私はコンピュータと人脈を駆使して、彼らがさがしている本を見つけだす。

コンピュータ。そう、今はそんなものもあるのだ。書名と著者名を打ちこめば、それが絶版になつていくかどうかもある。本屋としてはあまり喜ばしくないが、コンピュータで本を買うことだってできる。おばあちゃん、もう少し長生きしていれば、あなたがあんなにもさがしていた本を届けることができたかもしれないよ。ときどき、私はそんなことを思う。

おばあちゃんがなぜあの本をさがしていたのか、私は知った気がしている。大学生のとき、復刻版を手にしたから、毎晩私はそれを読んだ。日本ではちつとも名が売れず、四十歳のときフランスに渡りようやく芽が出たものの、十年もせず亡くなってしまった画家の、それは日々雑記のような本だった。日本での日々、フランスでの日々。幼いころに見た光景、とうに亡くなった母親の面影<sup>おもかげ</sup>、フランスで一番最初に食べた料理。

このなかに、『定食屋の娘』という短いエッセイがある。

(a) もも色の頬、いつも濡れたような薄茶色の瞳、文句ありげにいつも尖らせている唇、髪の毛が少ないせいで針金<sup>F</sup>みたいに細い三つ編み、ひまなとき彼女が何気なく歌っているちいさな鼻歌、取りのない定食屋夫婦とのやりとり。

(b) 画家の文章は、読んでいる私にくっきりとした光景を見せる。そうとは気づかず自らの若さをはじけるくらい表出している娘、若さが見せる不思議な美しさと安心感。飾り気のない定食屋家族の、独特の温度。薄暗く静かな、これから起こるだろういつさいのGも暗澹<sup>注4</sup>も、やんわりと、しかし頑<sup>注5</sup>として受けつけないような店の内部。何も損なうことなく永遠にそこにあり続けるような、一瞬の光景。そんなものが、見るものを釘付けにする絵画のように、私のなかに浮かび上がった。

(c) おばあちゃんの両親は、父親が戦争で亡くなるまで実際定食屋を営んでいたらしい。戦後、おばあちゃんが警察官のもとに嫁<sup>と</sup>

いだのをきっかけに、おばあちゃんの母親は定食屋をたたみ、自宅  
で裁縫を教えていたと、いつか聞いたことがある。

(d) おばあちゃんは昭和二十五年に出たこのエッセイを読んだ  
ことがあったのかなかったのかはわからない。読んで、自分のこと  
が書かれていると気づいたかもしれないし、**H** だれか他人から、  
そんな話を聞いたのかもしれない。どちらにしてもおばあちゃんは、  
病院のベッドに寝そべって、絵画のように切り取られた若き日の自  
分を見てみたかったに違いない。画家が活字で切り取った、永遠に  
そこにあり続ける十代の自分と、家族と家を。

(角田光代『この本が、世界に存在すること』)

メディアファクトリーより)

注1 名残

ある物事が終わった後に残っている、そ  
の気配や余韻。

注2 売り手市場

求人数よりも求職者の方が少なく、求職  
者に有利な状況。

注3 コンシェルジェ

ホテル等における総合世話係。転じて、  
特定の分野を紹介、案内する人。

注4 暗澹

将来の見通しが立たず、全く希望が持て  
ないさま。

注5 頑として

かたくなに。

問一

**A** ・ **C** に当てはまる言葉の組み合わせを、次の  
中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は**20**。

|   |          |   |   |          |   |
|---|----------|---|---|----------|---|
| 1 | <b>A</b> | 足 | ・ | <b>C</b> | 本 |
| 2 | <b>A</b> | 足 | ・ | <b>C</b> | 能 |
| 3 | <b>A</b> | 毛 | ・ | <b>C</b> | ト |
| 4 | <b>A</b> | 毛 | ・ | <b>C</b> | 肩 |

問二

―線部B「とんでもない」の文中での意味として最も適切な  
ものを、次の中から選び番号で答えなさい。解答番号は**21**。

- |   |         |   |       |
|---|---------|---|-------|
| 1 | ふさわしくない | 2 | 理不尽な  |
| 3 | おおげさな   | 4 | 現実離れた |

問三

―線部D「おばあちゃんがなぜあの本をさがしていたのか、  
私は知った気がしている」とあるが、「私」はなぜ「おばあ  
ちゃん」は本を探していたと考えているか。最も適切なもの  
を、次の中から選び番号で答えなさい。解答番号は**22**。

- |   |                                                        |
|---|--------------------------------------------------------|
| 1 | 「おばあちゃん」はエッセイに描かれた若い自分や家族、家<br>の様子を見たかったのだろうと思ったから。    |
| 2 | 「おばあちゃん」は若いころフランスに住んでおり、画家の<br>書いたエッセイの内容に親しみを感じたから。   |
| 3 | 「おばあちゃん」は両親の営む店を訪れる画家の名前を思い<br>出せないことを、最後まで心残りにしていたから。 |
| 4 | 「おばあちゃん」は若い自分の姿をエッセイに描いた画家に<br>対して、老いてなお好意を寄せていたから。    |

問四

**E** には次の四つの文章が入る。入る順番を答えたものを、後から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は**23**。

ア 著者は、この娘見たさにまずい定食屋に通うのである。  
イ 太平洋戦争がはじまるずっと前の話らしい。  
ウ まずいのだが、この店の、十八にもならない娘がときどき店に出て手伝っていることがある。  
エ 著者の下宿のそばに、何の変哲もない定食屋があつて、そこが驚くほどまずい。

- 1 ア→エ→ウ→イ      2 イ→エ→ウ→ア  
3 イ→エ→ア→ウ      4 ウ→エ→ア→イ

問五

次の文章は、本文の(a)～(d)のどこに入るか。当てはまる箇所を、後から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は**24**。

そうして私は思ったのだ。この定食屋の娘は、おばあちゃんに違いないと。

- 1 (a)      2 (b)      3 (c)      4 (d)

問六

―線部F「針金みたいに」に用いられている表現技法を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は**25**。

- 1 隠喩      2 直喩      3 擬態語      4 擬人法

問七

**G** に当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は**26**。

- 1 喜劇      2 災害      3 愛情      4 悲惨

問八

**H** に当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は**27**。

- 1 あるいは      2 また      3 とはいえ      4 しかし

問九

本文の内容として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は**28**。

- 1 「私」は大手広告代理店や出版社に入社することを良しとするクラスメイトに反発し、小規模な本屋に就職した。  
2 「私」は「おばあちゃん」が探していた本を存命中に見つけられなかったことに、現在もひどく心を痛めて過ごしている。  
3 「おばあちゃん」が探していたエッセイには、落ちぶれた画家が昭和二十五年に来日した際の思い出が書かれている。  
4 「私」は「おばあちゃん」が画家によって書かれた『定食屋の娘』を読んだことがあるかどうかまではわからなかった。

#### ④ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

A アイデンティティをめぐる問い

① 「自分って何だろう」

「自分は何のために生まれてきたのだろう」

「自分はどこから来て、どこに向かっているのだろう」

② このような問いをアイデンティティをめぐる問いという。哲学青年のように人生の探究にはまっている人は別にすると、このようにいかにも哲学ふうな問いと格闘することはないかもしれない。

③ 児童がこんな問いを発してきたら、カンシンするというよりも、ちよつと驚いてしまう。もちろん、身長や体重に大きな個人差があるように、心の発達にも個人差があるため、早熟な子どもがこのように問いを発することも十分あり得ることだ。

④ でも、思春期になると、だれもが多少なりとも哲学ふうな問いと無縁ではなくなる。改めてこんな問い方をしないまでも、つかみどころのない自分をもてあます。もつと未熟な言葉で考えるにしても、どこかでこのような問いが気になつてくる。

⑤ 「自分らしく生きたい。でも、どういう生き方が自分らしいんだろう」「自分らしさって何だろう」といった問いが浮かんできるとは、だれでもよくあるのではないか。自分はこれまでどのような人生を歩んできたのだろう。自分はこの先どのような人生を歩んでいくのだろう。自分はいったい何をしたいんだろう。自分はこの社会で何をすることを求められているのだろう。自分は何をすべきなんだろう。「自分は……」「自分は……」「自分は……」と、この種の問いが押し寄せてくる。このような問いは、より実践的なアイデンティティをめぐる問いといえることができる。

⑥ そもそもアイデンティティとは何なのか。これは、精神分析学者として心の発達を探索したエリクソンが、心理学用語として導入したもので、「同一性」と訳される。一般に、アイデンティティと

いうときは、自己のアイデンティティを意味する。

⑦ アイデンティティとは、自分が自分であることの証明であり、「これが自分だ」「これが自分らしい生き方だ」と言えるようなものがかめてきたとき、アイデンティティが確立されたことになる。僕たちが世間で使っているIDカードというのは社会的な立場が明示されている身分証明書のことだが、自分の生き方の特徴を証明するのがアイデンティティだと言える。

D

⑧ アイデンティティをめぐる問いの中核にあるのが、自分を社会にどのようにしてつなげていくかというテーマである。それは、具体的には職業をめぐる葛藤として経験されることが多い。(中略)

⑨ アイデンティティをめぐる問いというのは、生き方の軸となる価値観の探求であり、より現実的には職業選択をめぐる葛藤といえる。どう生きるのが自分にふさわしいのか。それは、何をして暮らすのかということでもあり、職業というものを無視して答を出すのは難しい。エリクソンも指摘しているように、青年期のアイデンティティをめぐる葛藤の中核には、いわば職業的アイデンティティを固めることができないということがあるのだ。

⑩ エリクソンは、アイデンティティの確立が青年期の最も重要な課題だという。世の中がF時代だったらそうかもしれない。世の中の変化が少なく、大人とはこんな生き方をするものだという大人像が明確で揺るがない時代なら、大人の世界に仲間入りする時点で、アイデンティティは確立されるのかもしれない。

⑪ でも、今はそんな時代じゃない。止まるところを知らないIT革命の波により、世の中の仕事の形態も僕たちのライフスタイルも目まぐるしく変化していく。だれもがこの社会で生きていく限り、そうした変化に適応していかなければならない。自分を社会につなげていくというのは、ますます難しい課題になってきている。



⑫そうすると、「これが自分らしい生き方だ」というアイデンティティの思想的な核の部分は変わらないにしても、「何をして生きるか」「どのように暮らすか」という具体的な部分は絶えず見直しを迫られることになる。

⑬そんな時代ゆえに、僕は、アイデンティティは人生の節目節目に問い直され、その時々<sup>そのとき</sup>の社会的状況や自分の置かれた状況にふさわしい形につくり直されると考えている。G、たとえ暫定的なものではあっても、社会に出て行くに当たって初めて自己のアイデンティティをめぐる問いに対して回答を与えるという意味で、アイデンティティの確立は、H期から青年期にかけて格闘すべき重要な課題と言えるだろう。

（榎本博明『へ自分らしき』って何だろう？

自分と向き合う心理学』筑摩書房より）

注1 アイデンティティ

自分は自分であるという認識や感覚。

注2 早熟

肉体、精神の発達が普通より早いこと。

注3 エリクソン

二十世紀に活躍したアメリカの発達心理・精神分析学者。

注4 中核

物事を中心。重要な部分。

注5 葛藤

相反する感情がもつれ合い迷うこと。

注6 暫定

一時的な。

問一 この文章全体の段落構造として最も適切なものを、次の中から選び番号で答えなさい。解答番号は29。

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 1 | ① ② — ③ ④ ⑤ — ⑥ ⑦ — ⑧ ⑨ ⑩ — ⑪ ⑫ — ⑬ |
| 2 | ① — ② ③ ④ ⑤ — ⑥ ⑦ — ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ — ⑫ ⑬   |
| 3 | ① ② ③ — ④ ⑤ — ⑥ — ⑦ — ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ — ⑬ |
| 4 | ① ② ③ — ④ ⑤ — ⑥ ⑦ — ⑧ ⑨ ⑩ — ⑪ ⑫ — ⑬ |

問二 —線部A「アイデンティティをめぐる問い」とあるが、「アイデンティティをめぐる問い」に当てはまらないものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は30。

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| 1 | 自分は何のために生まれてきたのだろう         |
| 2 | 自分はこの社会で何をすることを求められているのだろう |
| 3 | これが自分らしい生き方だ               |
| 4 | 何をして生きるのか                  |

問三 —線部B「カンシン」を漢字に直したものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は31。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 関心 | 2 | 歓心 | 3 | 感心 | 4 | 肝心 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

問四  
―線部C「つかみどころのない自分」とあるが、「自分」をつかめるようになるのはどのようなときだと筆者は述べているか。最も適切なものを、次の中から選び番号で答えなさい。  
解答番号は32。

1 「これが自分らしい生き方だ」と言えるような自分の生き方の特徴をつかみ、証明できるようになったとき。  
2 自分が歩んできた人生についての問いを、未熟な言葉ながらも形にすることができるようになったとき。  
3 自分のアイデンティティをその時々 of 社会的状況に合わせて変化させ、適応することができるようになったとき。  
4 世間で使用されるようなIDカードを用いて、自分の社会的な立場を明示し、身分を証明できるようになったとき。

問五  
Dに入る小見出しを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は33。

1 アイデンティティをめぐる葛藤  
2 アイデンティティとは何か  
3 自分が自分であることの証明  
4 自分を社会にどうつなげていくか

問六  
―線部E「それ」とあるが、指示された内容として正しいものものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は34。

1 アイデンティティの確立  
2 どう生きるのが自分にふさわしいのか  
3 何をして暮らすのか  
4 職業選択をめぐる葛藤

問七  
Fに当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は35。

1 窮屈な 2 静的な 3 順当な 4 変革の

問八  
Gに当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は36。

1 ただし 2 しかし 3 だから 4 一方

問九  
Hに当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は37。

1 学童 2 壮年 3 思春 4 成人

問十  
本文の内容として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は38。

1 自分をめぐる問いと格闘することは、思春期に入るまでに、誰もが経験し、解決しているはずの出来事である。  
2 社会の激しい変化に適応するために、アイデンティティは何度も問い直され、つくり直されることになる。  
3 現代は想定される大人像が不明確なため、一刻も早く大人の仲間入りをすることがアイデンティティの確立につながる。  
4 自分を社会にどうつなげていくかという悩みは、一定の職業に就いた時点で解決することができるものである。